



多摩市立瓜生小学校

# 瓜生小だより

令和元年度 第7号  
令和元年9月30日

## 心を込めて思いを届ける

校長 吉田 正行

瓜生小学校では1年生から和太鼓に触れ、和太鼓の音や音を合わせることを楽しみながら、日本の伝統文化である和太鼓の歴史を学び、演奏に取り組んでいます。6年生は6年間学んだ瓜生太鼓の集大成として、学習したことを演奏を通して下級生や地域の方々に発信し、自分たちの思いを届けています。

今年は9日からの八ヶ岳移動教室があったため、例年より早く夏休み前から練習に取り組みました。音楽専科の指導の下、日本の武道や芸の稽古と同じように言動や行動が礼儀正しく進められ、常に整然と行われます。それと同時に気持ちを鎮め、精神統一して物事に取り組むという和の作法を習得し、心を磨いていきます。和太鼓の原点は和の精神であると考え、日本にはこんな素晴らしい音があり、文化があるということを感じ、演奏を聴いてくださる方々に心を込めて伝えるようにしています。

敬老の日の前、9月13日に学校のすぐ近くにある「ケアプラザ多摩」に行き、「子どもばやし」を披露しました。「子どもばやし」はゆったりとしたリズムから速いリズムへと曲想が変化するとともに、流し打ちやバチ回しなど、動きも激しいので、子供たちの心が一つにならないとうまくいきません。「敬老の日のお祝いと、施設で暮らす方々がいつまでも元気でいてほしい」という思いを届けようと必死に練習に励んできました。中には自分のおばあちゃんに聞かせるつもりで演奏すると張り切っている児童もいました。



施設で瓜生太鼓を披露する6年生

演奏が終わると車椅子でフロアにいる方だけでなく、2階、3階のベランダから見ている入居者の方からも大きな拍手や「ありがとう。よかったよ」という言葉をいただきました。中には涙を流して喜んで手を振る方もいて、子供たちも大きな充実感に包まれました。

和太鼓の演奏を通して、6年生は自分が他の人の役に立っているという自己有用感を高めることができました。それは「お年寄りの方々が感動してくれて、嬉しかった」「一所懸命やって思いが伝わった。ケアプラザの皆さんがぬり絵やお礼の手紙をくれて私たちも元気をもらった」「みんなの心が一つになって、元気でいてほしいという願いが伝えられた」という感想からも感じ取れました。今回の感動が自分の将来の夢や職業に影響を与えることもあるかもしれません。立派な6年生の姿に大きな成長を感じるとともに、これからも地域の中で子供たちが成長できる場をつくっていききたいと思います。

せいかつしゅうかん

### 【生活習慣のふりかえり 9月】

□に各自のふりかえりを記入する

あいさつ へんじ  
挨拶・返事

自分から気持ちよい挨拶や返事をしましょう。……………

やさしいことば  
優しい言葉

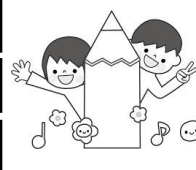
優しく心が温まる言葉づかいで話しましょう。……………

がくしゅう どくしょ  
学習・読書

家庭での学習や読書の時間を決めて取り組みましょう。…

しんせつ こうどう  
親切な行動

親切な行動、助け合いを毎日欠かさず実行しましょう。…



◎…よくできた ○…ときどきできた △…あまりできなかった

◆各自の一か月のふりかえりをご家庭でも話題にさせていただきようお願いいたします。